

果樹カメムシ類情報第1号

令和7年4月7日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

チャバネアオカメムシの飛来数は6月末まで平年並からやや多い ツヤアオカメムシにも注意

1 令和7年のチャバネアオカメムシ越冬成虫密度調査結果

果樹カメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシの越冬成虫密度調査を県内14地点で行った結果、平均越冬成虫密度は0.69頭/㎡（過去10年の平均値0.58頭/㎡、昨年0.86頭/㎡）、越冬成虫の確認地点割合は71.4%（過去10年の平均値55.0%、昨年71.4%）（表1）となり、平年並でした。

2 令和7年の飛来数予測

チャバネアオカメムシの越冬成虫密度と、飛来数の目安となる予察灯における5～6月の誘殺数は関連しており、越冬成虫密度が高い年は誘殺数も多くなる傾向があります。今冬の越冬成虫密度は平年並でした（図1）。しかし、令和6年8月から10月までの予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺総数は多い状況であり、越冬成虫密度が高い地域もあるため、地域によってやや多く発生する可能性があります、注意が必要です。

令和6年の秋季は、予察灯においてツヤアオカメムシが多く誘殺されました（図2）。越冬量も多くなっている可能性があるため、注意が必要です。

また、4月3日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されています。果樹カメムシ類の活動開始が例年より早まることが考えられます。ほ場での発生状況をよく観察し、フェロモントラップ及び5月から始まる果樹カメムシ類の予察灯における誘殺数などを参考にして、防除を実施しましょう（表2）。

表1 令和7年のチャバネアオカメムシ越冬成虫密度（頭/㎡）

調査年	調 査 地 点														全地点の 越冬確認 平均 地点割合	
	幸田町		新城市				豊橋市				豊川市					
	須美 北山北	須美 北山東	大海	市川	小畑	稲木	嵩山	石巻 萩平	石巻 平野	小野田	平尾	千両	足山田	金沢		
令和7年	0.00	0.00	0.67	1.00	0.33	0.00	0.67	1.33	0.33	0.00	0.33	1.67	2.00	1.33	0.69	71.4%
平年	0.27	0.23	1.53	0.80	0.67	0.53	0.60	0.53	0.90	0.17	0.13	0.27	0.87	0.57	0.58	55.0%

（参考）

調査年	調査地点		
	豊田市		
	舞木	猿投	西中山
令和7年	0.00	2.00	2.67
令和3～6年平均	0.33	0.67	0.67

平年：平成27年から令和6年までの過去10年の平均値。

全地点の平均及び越冬確認地点割合は幸田町、新城市、豊橋市、豊川市の結果を基に算出した。

豊田市における調査は令和3年から実施。

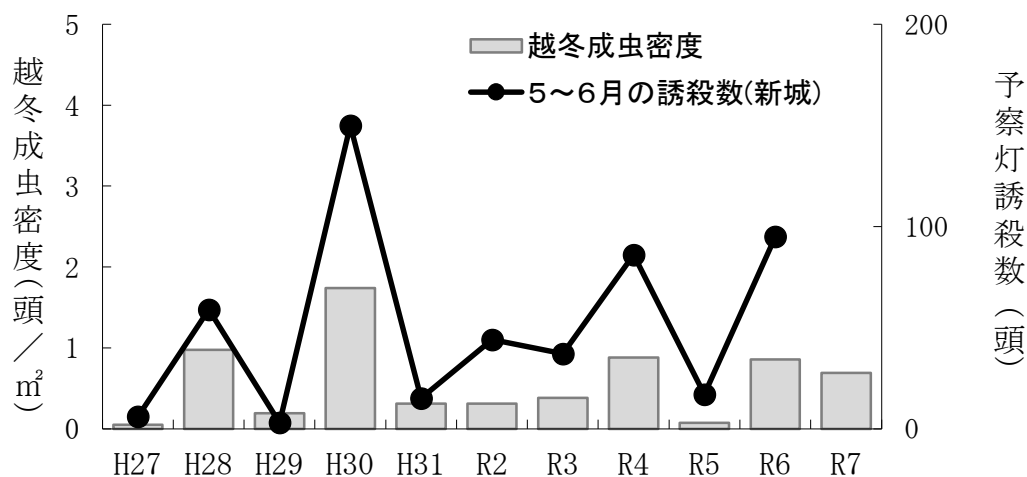


図1 チャバネアオカメムシの越冬成虫密度と新城市に設置した予察灯における越冬成虫の誘殺数

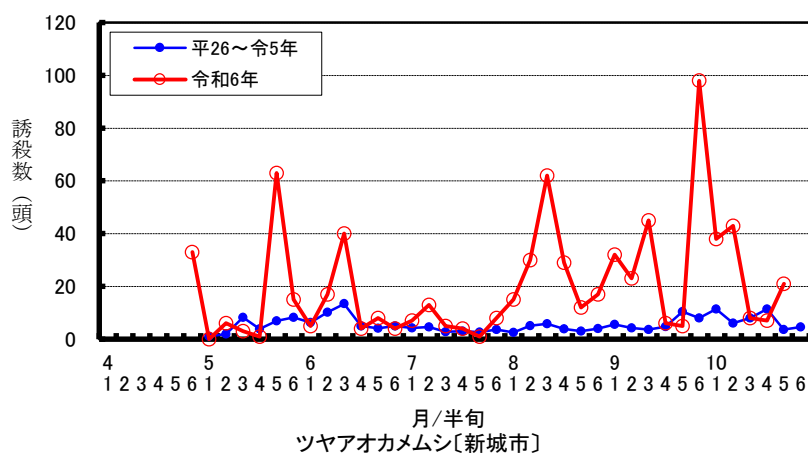


図2 新城市に設置した予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺数

表2 果樹カメムシ類に対する主な農薬

作物名	薬剤名	使用時期	使用回数	IRACコード
うめ	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫前日まで	3回以内	3A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤(※)	収穫前日まで	3回以内	4A
もも	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	2回以内	3A
なし	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫前日まで	5回以内	3A
ぶどう	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A

※ 小粒核果類で登録

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細はhttps://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。